

事務事業名		勤労者資金融資事業		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目				
	施策名	24 雇用の創出と安定		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和51 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		会計	款			
	基本事業名	02 勤労者福祉の推進				項	目	事業		
根拠法令		大船渡市勤労者生活資金融資要綱、大船渡市勤労者住宅建設資金融資あつ旋規則、大船渡市勤労者教育資金融資あつ旋規則		01		05	01	01	10	
所 属	部課名	商工港湾部 商工課		総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0						
	課長名	佐々木毅								
	係 名	労政係	電話							0192-27-3111
	担当者	村上智哉	内線							111
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
市内勤労者へ生活・教育・福祉各資金を融資するため、市が東北労働金庫へ資金を預け入れる。 東北労働金庫が窓口となり、申請を受理し、協議のうえ市が融資実行の決定をし、東北労働金庫が申請者へ融資を行う。貸付限度額は、生活資金100万円、教育資金200万円、福祉資金100万円となっている。 ・業務内容 ①東北労働金庫へ原資を預託 ②東北労働金庫大船渡支店(以下「東北労金」。)にて申請の受理 ③東北労金および市による審査、融資実行可否の決定 ④融資実績の報告 ⑤預託金の返還 ・事業費 支出は預託金のみで年度始めに預託し年度末に満額返還される。										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標			
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) ・融資原資の預託 ・融資申請の受理、審査、可否決定 今年度計画(今年度に計画している主な活動) ※28年度から住宅建設資金を廃止し、福祉資金を新設した。	➡	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
		名称	単位
		ア 融資申請の審査件数	件
		イ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市内に居住し、同一事業所に一年以上勤務している者	➡	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		名称	単位
		カ 市内常用雇用者(国勢調査より5年に1回)	人
		キ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 勤労者の生活、教育、福祉の各種資金の需要に対応することができる。	➡	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		サ 融資件数	件
		シ	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 福利厚生制度が整う。	➡	ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	62,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	
		事業費計 (A)	千 円	62,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	100	100	100	100	100	100	
		人件費計 (B)	千 円	400	400	400	400	400	400	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	62,400	32,400	32,400	32,400	32,400	32,400	
⑤活動指標	ア	件	3	4	2	3	2	5		
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	人	9,352	9,352	9,352	9,352	9,352	9,352		
	キ									
	ク									
⑦成果指標	サ	件	3	4	2	3	2	5		
	シ									
	ス									

事務事業ID	0397	事務事業名	勤労者資金融資事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

事業開始当初の勤労者に対する民間の融資条件は、現在よりもかなり厳しい状況にあったため、なかなか生活資金等の融資を受けられなかった。このことから、昭和51年度より市が金融機関に原資を預託し、融資の便宜を図った。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

現在では、民間で取り扱っている融資制度の融資条件がかなり緩和されてきており、市制度よりも利率が有利なものが出回ようになってきている。また、政府系金融機関でも低利率の融資制度を取り揃えている。

融資実行までの期間等も民間の方が早くなっている一方で、また、市の職員に家庭内の実情を知られたくないということも聞く。

平成24年度、旧商工観光物産課から港湾経済課に業務を移管した。平成28年度より、旧港湾経済課から商工課に業務を移管した。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

東北労働金庫より、制度の見直しについて通知があり、平成28年度より住宅建設資金融資制度を廃止し、新たに福祉資金融資制度を新設することとした。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒	勤労者に必要資金を融資あっせんすることにより、生活の安定に寄与できる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒	市内勤労者に対し、安定した利率で融資あっせんすることができる。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒	需要にあわせて28年度から見直したことで現状、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒	ここ数年は市制度の利用が少ないため、今後は融資条件等の緩和も検討する必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒	現在の環境であれば民間の金融商品で十分対応可能であるとも予想できるが、今後、以前のように民間での融資条件等が厳しくなった場合、市の融資制度の存在価値が出てくるものと思われる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒	類似事業がない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	預託金は、年度末に返還されるものであるので削減する必要はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	最低限の人員で業務を執り行っており、削減の余地がない。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒	一般勤労者としているので公平性がある。
公平性 評価			事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

事務事業ID	0397	事務事業名	勤労者資金融資事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 生活資金・教育資金・福祉資金それぞれの制度に対し、金融機関へ預託している。制度については年数回市広報等で紹介している。ここ数年利用実績が少ないため、条件の緩和等も検討する必要がある。昨年度末に金融機関(東北労働金庫)より制度の見直しについて説明があり、平成28年度から融資内容を見直した。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 制度利用促進のため、融資条件等の緩和を検討する必要がある。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	商工課長 佐々木 毅

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 勤労者が使いやすい内容に見直しが必要と考える。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 市広報及びチラシ等により制度の周知を図る。場合によっては融資条件の見直しを検討する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
